

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第6部門第3区分
 【発行日】平成19年1月25日(2007.1.25)

【公開番号】特開2005-165842(P2005-165842A)
 【公開日】平成17年6月23日(2005.6.23)
 【年通号数】公開・登録公報2005-024
 【出願番号】特願2003-406064(P2003-406064)
 【国際特許分類】

G 0 6 Q 10/00 (2006.01)

【F I】

G 0 6 F 17/60 1 6 2 A

【手続補正書】
 【提出日】平成18年11月30日(2006.11.30)
 【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲
 【補正対象項目名】全文
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項1】

スケジュールに関する診断を行うスケジュール診断装置において、

時間的に一部又は全部が重なるスケジュールの入力を許容してスケジュールのデータとして当該スケジュールが行われる時間のデータ及び場所のデータを含むデータを入力するスケジュールデータ入力手段と、

スケジュールデータ入力手段により入力されるスケジュールのデータを記憶するスケジュールデータ記憶手段と、

スケジュールに関する診断を行うための判断条件のデータとして移動時間のデータを含むデータを記憶する判断条件データ記憶手段と、

スケジュールデータ記憶手段に記憶されるスケジュールのデータ及び判断条件データ記憶手段に記憶される判断条件のデータに基づいて、時間的に前のスケジュールと後のスケジュールとの間に移動時間を確保することが可能であるか否かを診断するスケジュール診断手段と、

を備えたことを特徴とするスケジュール診断装置。

【請求項2】

請求項1に記載のスケジュール診断装置において、

スケジュール診断手段によりスケジュールに関する診断を行った結果を出力するスケジュール診断結果出力手段を備えた、

ことを特徴とするスケジュール診断装置。

【請求項3】

請求項1又は請求項2に記載のスケジュール診断装置において、

スケジュールに関する診断の開始の指示を受け付けるスケジュール診断開始指示受付手段を備え、

スケジュール診断手段は、スケジュール診断開始指示受付手段によりスケジュールに関する診断の開始の指示を受け付けたことに応じて、スケジュールに関する診断を行う、
 ことを特徴とするスケジュール診断装置。

【請求項4】

請求項1乃至請求項3のいずれか1項に記載のスケジュール診断装置において、

スケジュールデータ記憶手段に記憶されるスケジュールのデータの変更状態を監視して

、変更があった場合にはスケジュールに関する診断の開始の指示を発生させるスケジュール診断開始指示発生手段を備え、

スケジュール診断手段は、スケジュール診断開始指示発生手段によりスケジュールに関する診断の開始の指示が発生させられたことに応じて、スケジュールに関する診断を行う

—
ことを特徴とするスケジュール診断装置。

【請求項 5】

請求項 1 乃至請求項 4 のいずれか 1 項に記載のスケジュール診断装置において、

スケジュール診断手段は、スケジュールに関する診断の結果のデータをスケジュールデータ記憶手段に記憶させる、

ことを特徴とするスケジュール診断装置。

【請求項 6】

請求項 1 乃至請求項 5 のいずれか 1 項に記載のスケジュール診断装置において、

判断条件データ記憶手段に記憶される判断条件のデータは、移動中に食事を取ることが可能であるか否かを示すデータを含み、

スケジュール診断手段は、複数のスケジュールから成る一連の行動パターンの中で移動中に食事を取ることが可能であるか否かを診断する、

ことを特徴とするスケジュール診断装置。

【請求項 7】

請求項 1 乃至請求項 6 のいずれか 1 項に記載のスケジュール診断装置において、

スケジュールのデータは、当該スケジュール中に食事を取ることが可能であるか否かを示すデータを含み、

スケジュール診断手段は、複数のスケジュールから成る一連の行動パターンの中でスケジュール中に食事を取ることが可能であるか否かを診断する、

ことを特徴とするスケジュール診断装置。

【請求項 8】

請求項 1 乃至請求項 7 のいずれか 1 項に記載のスケジュール診断装置において、

スケジュール診断手段は、複数のスケジュールから成る一連の行動パターンの中で時間的に前のスケジュールと時間的に後のスケジュールとの間の空き時間に食事を取ることが可能であるか否かを診断する、

ことを特徴とするスケジュール診断装置。

【請求項 9】

請求項 1 乃至請求項 8 のいずれか 1 項に記載のスケジュール診断装置において、

判断条件データ記憶手段に記憶される判断条件のデータは、人の集中力が持続する時間に関するデータを含み、

スケジュール診断手段は、スケジュールの持続時間に基づいて人の集中力が持続するか否かを診断する、

ことを特徴とするスケジュール診断装置。

【請求項 10】

請求項 9 に記載のスケジュール診断装置において、

スケジュール診断手段は、人の集中力が持続しないと診断されるスケジュールについて必要な休憩の回数を診断する、

ことを特徴とするスケジュール診断装置。

【請求項 11】

請求項 9 又は請求項 10 に記載のスケジュール診断装置において、

スケジュールのデータは、当該スケジュールのタイプのデータを含み、

人の集中力が持続する時間は、スケジュールのタイプ毎に応じて設定される、

ことを特徴とするスケジュール診断装置。

【請求項 12】

請求項 2 に記載のスケジュール診断装置において、

スケジュール診断手段は、複数のスケジュールから成る一連の行動パターンの1種類又は複数種類について診断を行い、

スケジュール診断結果出力手段は、複数のスケジュールから成る一連の行動パターンの1種類又は複数種類についての診断結果を表示出力する、

ことを特徴とするスケジュール診断装置。

【請求項13】

請求項12に記載のスケジュール診断装置において、

スケジュール診断結果出力手段は、スケジュールの診断結果を一覧表の形式で、又は、模式的に、表示出力する、

ことを特徴とするスケジュール診断装置。

【請求項14】

請求項2、請求項12又は請求項13のいずれか1項に記載のスケジュール診断装置において、

スケジュール診断手段は、複数のスケジュールから成る一連の行動パターンの複数種類の中から1種類又は2種類以上を選択し、

スケジュール診断結果出力手段は、スケジュール診断手段により選択された行動パターンに関する診断結果を出力する、

ことを特徴とするスケジュール診断装置。

【請求項15】

請求項1乃至請求項14のいずれか1項に記載のスケジュール診断装置において、

人物及び日付を特定する人物日付特定手段を備え、

スケジュール診断手段は、人物日付特定手段により特定される人物及び日付に該当する複数のスケジュールのデータに基づいてスケジュールに関する診断を行う、

ことを特徴とするスケジュール診断装置。

【請求項16】

スケジュール診断装置を構成するコンピュータに実行させるプログラムであって、

時間的に一部又は全部が重なるスケジュールの入力を許容してスケジュールのデータとして当該スケジュールが行われる時間のデータ及び場所のデータを含むデータを入力する機能と、

入力されたスケジュールのデータをスケジュールデータ記憶手段に記憶する機能と、

スケジュールデータ記憶手段に記憶されるスケジュールのデータ及びスケジュールに関する診断を行うための判断条件のデータとして移動時間のデータを含むデータを記憶する判断条件データ記憶手段に記憶される判断条件のデータに基づいて、時間的に前のスケジュールと後のスケジュールとの間に移動時間を確保することが可能であるか否かを診断する機能を、当該コンピュータに実現させる、

ことを特徴とするプログラム。